親しい人への加害行為に対するゆるせなさに関する検討

○沼田 真美
(大妻女子大学)

キーワード: ゆるせなさ, ゆるし, 親しい人への加害行為

Unforgiveness of an act of harm committed towards a loved one by someone else
Mami Numata

(Otsuma Woman's University)

Key Words: unforgiveness, forgiveness, an act of harm committed towards a loved one

目 的

ゆるし (forgiveness) は, 被害によって生じたストレスを減少させる効果を持つ有用な概念である (Worthington, 2014)。ゆるしは, 「自己および他者の被害や罪に対する否定的な内的反応を低減させ, 中性的または肯定的な反応へ変容させること」 (沼田, 2019) と定義される。この定義にもみられるように, 現在ゆるしの対象は, 他者だけに留まらず, 自己へも拡張されている (Wohl et al., 2008)。このうち, 自己が被害を受けたことに対する他者への状態ゆるし (他者加害・自己被害) は, 報復・回避・慈愛の3因子として測定され (TRIM-18; McCullough et al., 2006), 反芻がゆるしを抑制することが明らかにされてきた (Besser & Zeigler-Hill, 2010)。沼田 (2016) は, 国内の大学生を対象として, ゆるせなかった出来事に関する自由記述調査を実施した。その結果, 他者による親しい人への加害行為に対するゆるせなさがみられていた。さらに, 沼田 (2017) は, 国内の大学生を対象として, ゆるせなかった出来事に関する半構造化面接調査を実施した。その結果, 他者による親しい人への加害行為によるゆるせなさ該当する内容が21.0%みられた。他者による親しい人への加害行為に対するゆるせなさ (他者加害・他者被害) に関する内容が確認されているにも関わらず, 十分な検討は行われていない。そこで, 本研究では, 他者による親しい人への加害行為に関するゆるしを測定する状態尺度を開発し, 自己が被害を受けたことに対する他者へのゆるしと同様の関連がみられると予測し, 自己注目や自尊感情, 侵入的熟考との関連を検討することを目的とする。

方 法

調査方法 質問紙調査を実施した。

調査対象者 関東の国立大学および私立大学に所属する大学生111名 (男性39名, 女性72名, 平均年齢19.58才, SD=1.64) を対象とした。

調査時期 2017年12月に実施した。

調査内容 沼田 (2016) で得られた自由記述のうち, 親しい人への加害行為に対する反応に関する内容について, TRIM-18 (McCullough et al., 2006), 他者へのゆるし傾向 (石川・濱口, 2007), HFS Other (Thompson et al., 2005), を参考として作成した独自項目21項目について回答を求めた。また, RRQ (高野・丹野, 2008), 熟考尺度 (Taku, 2015), 自尊感情尺度 (山本他, 1982) について回答を求めた。調査手続き 教示文は, 「これまでに, 親しい人 (家族, 恋人, 友人等) が, 別の他者から傷つけられた経験についてお尋ねします。その出来事に対する, 現在のあなたの気持ちや考えについて, あてはまるものをひとつずつ選んでくださ

い」であった。5件法で回答を求めた。

本研究は, 筑波大学人間系研究倫理委員会による承認を得ている (筑29-13)。

結 果 と 考 察

全21項目に対し, 最尤法, プロマックス回転による探索的因子分析を行った。初期固有値の減衰状況, 解釈可能性から, 3因子構造が妥当であると判断し, 最終的に得られた因子パターンをTable 1に示す。因子負荷量の高い項目内容から順に, 第1因子 “不快感”, 第2因子 “歩み寄り”, 第3因子 “受け止め” と命名された。各因子のCronbachの α 係数は, .73から.91の範囲であり, 内的整合性は十分と判断した。また, 得られた各因子に対して, 相関係数の算出および重回帰分析 (ステップワイズ, 変数増加法) を行った (Table2)。その結果, 当時の反芻の程度である侵入的熟考が不快感へ正の影響および受け止めへ負の影響を及ぼすことが示された。因子内容に関して, TRIM-18と比較すると, 不快感は, 回避・報復を含む項目内容, 歩み寄りは, 慈愛を含む項目内容によって構成されている。受け止めは, 対応する因子がみられず, 他者による親しい人への加害行為に対するゆるしに特徴的な側面と考えられる。謝辞 ご指導いただいた松井 豊 (筑波大学元教授) に感謝申し上げます。

Table 1
他者加害×他者被害における状態ゆるし尺度の
探索的因子分析結果 (最尤法・プロマックス回転, $n=111$)

	F1	F2	F3	<i>M</i>	<i>SD</i>
F1: 不快感 ($\alpha=.91$)					
その他者に対して, 腹が立つ	.97	.10	.08	3.79	1.29
その他者を責める気持ちが残っている	.96	.14	.00	3.50	1.35
その他者への, 不機嫌な気持ちが残っている	.84	.04	.03	3.50	1.38
その他者のことを考えると, 腹が立つようになる	.72	-.04	-.06	2.79	1.39
その他者を, 自分はゆるしていない	.69	-.22	-.16	2.94	1.33
その他者には, 近づきたくないと思っている	.54	-.20	.00	2.70	1.36
F2: 歩み寄り ($\alpha=.88$)					
その他者にも, 他にいいところがあると思っている	.04	.88	.02	3.69	1.14
その他者に対して, 機会があれば仲良くしてもよいと思っている	-.04	.87	.01	3.68	1.30
その他者が, 困っていれば助けるだろう	-.05	.86	.03	3.53	1.31
その他者にも, 何らかの事情があったのかもしれない	.02	.62	-.05	3.22	1.33
F3: 受け止め ($\alpha=.73$)					
その出来事を思い出す頻度が減ったと感じている	.14	.12	.70	3.49	1.29
その出来事を思い出しても, 動揺することはない	-.11	-.17	.70	3.67	1.15
その出来事を思い出しても, 客観的な自分であることができる	-.01	-.01	.69	4.10	1.08
累積寄与率	40.66	59.04	69.53		
因子間相関F1	-.43				
F2	-.36	-.04			

Table 2
他者加害×他者被害における状態ゆるし尺度
に対する重回帰分析結果および相関係数 ($n=111$)

	不快感		歩み寄り		受け止め	
	β	<i>r</i>	β	<i>r</i>	β	<i>r</i>
反芻	.23 *		.03		.06	
省察	.24 *		.03		.00	
侵入的熟考	.37 **	.36 **	.02	-.32 **	-.31 **	
自尊感情	.04		.00		.04	
R^2	.13 **		.10 *			
$F(df)$	15.69(1, 110)	<i>n.s.</i>	11.51(1, 110)			

* $p < .05$, ** $p < .01$ (ステップワイズ, 変数増加法)